

情報公開文書

聖隷三方原病院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた検体やカルテ記録を利用することによって行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究の計画や方法について詳しくお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ記録を利用することをご了解いただけない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] 高悪性度肺神経内分泌がんにおける、運命制御転写因子の臨床病理学的特徴と治療反応性・予後との関連の後向き検討

[研究機関名] 聖隷三方原病院

[研究機関の長] 山本貴道

[研究責任者] 渡邊拓弥（呼吸器外科・医師）

[研究の概要]

■ 目的・方法（研究期間も含む）

<研究期間> 2021年10月5日～2025年10月31日

<目的>

肺がんは、癌死の最多原因であり、とりわけ高悪性度肺神経内分泌がんの代表である小細胞がんは最も予後不良な肺がんの組織型として知られています。小細胞肺がんにおけるマスターレギュレーターと呼ばれる転写因子の発現プロファイルによる分類が最近提唱され、これが今後の小細胞肺がんの個別化医療と治療成績の向上につながる可能性が期待されています。しかしながら、各レギュレーターの役割や、その発現の有無による治療反応性や予後への影響は明らかではありません。また、小細胞肺がんと同様に神経内分泌分化を特徴とする大細胞神経内分泌がん（Large cell neuroendocrine carcinoma: LCNEC）については、さらに臨床的・基礎的な知見に乏しく、上記の小細胞肺がんにおける運命制御転写因子の発現プロファイルがそのままLCNECに適用できるかはわかっていません。

本研究は、高悪性度肺神経内分泌がんの採取済み検体組織を利用し、各運命制御転写因子とそれに付随する重要なタンパク質の発現状況を明らかにし、臨床病理情報と照らし合わせて解析を行う後ろ向き研究です。本研究により、高悪性度肺神経内分泌がんの病態の理解を深めることを目的とします。

<方法> 既存試料と電子カルテに記載されている診療情報を用いた観察研究

■ 対象となる患者さん

当院において1990年～2020年までの期間で組織学的に高悪性度肺神経内分泌がんと診断された方。

■ 研究に用いる試料・情報の種類

試料：病理標本

情報：患者背景（年齢、性別、喫煙歴）、全身状態、高悪性度肺神経内分泌がんの診断

日、病期 (TNM分類)、疾患、治療法、予後等

■ 外部への試料・情報の提供

浜松医科大学内科学第二講座へのデータの提供は、個人を特定できる情報を取り除き、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、当院の研究責任者が保管・管理します。

■ 研究組織

研究責任者：浜松医科大学 内科学第二講座 教授 須田隆文

〒431-3192 浜松市中央区半田山一丁目20番1号 TEL: 054-435-2263

研究分担者：

浜松医科大学 腫瘍病理学講座 教授 新村和也

浜松医科大学 腫瘍病理学講座/内科学第二講座 渡邊裕文

浜松医科大学 内科学第二講座 井上裕介

共同研究機関：

聖隷三方原病院 呼吸器外科 渡邊拓弥

静岡県立総合病院 呼吸器内科 朝田和博

磐田市立総合病院 病理診断科 大西一平

藤枝市立総合病院 呼吸器内科 松浦 駿

[問い合わせ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先]

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷三方原病院

渡邊拓弥、呼吸器外科

電話 053-436-1251 FAX 053-438-2971